
研究資料 (Materials)

仙台市の日本語学校外国人留学生のスポーツ関心に関する調査

朴澤 憲治*

仙台大学体育学部

Kenji Hozawa*: A survey about the sports interests of foreign students at a Japanese language school in Sendai city, Japan. Bulletin of Sendai University, 56(2): 23-35, 2025.

Faculty of Sports Science, Sendai University

Abstract: Building a multicultural society, where both Japanese and foreigners accept the cultural differences mutually and live together in harmony, is being conducted around Japan recently. Especially Miyagi prefecture has also put effort into it. As Olympic seen, sports can contribute to building multicultural society. However, there is no prior research on awareness survey of foreigners in Sendai city, Miyagi prefecture. This research was conducted to foreigner students in three Japanese Language school in Sendai city in August 2023. Many of survey respondents are young students from South Asian countries. The survey showed the difference of sports customs between Japanese and them, and the problems that make them enjoy sports insufficiently.

KEYWORDS

foreign students, interests on sports, sendai city, Japanese language school, multicultural society

キーワード

外国人留学生, スポーツ関心, 仙台市, 日本語学校, 多文化共生社会

I 緒論

日本の人口減少は、国勢調査で確認できるように年々進行している（総務省統計局, online). その一方で、日本の外国人住民は近年増加している（出入国在留管理庁, online). このような傾向のもと、総務省（2006）は「外国人の定住化が進む現在、外国人を観光客や一時的滞在者としてのみならず、生活者・地域住民として認識する視点が日本社会には求められており、外国人住民への支援を総合的に行うと同時に、地域社会の構成員として社会参画を促す仕組みを

構築することが重要である」（総務省, 2006, p.5）とし、多文化共生を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省, 2006, p.5）と定義し、日本において外国人住民が増加するなかで多文化共生の推進の必要性を指摘した。そして、各地方自治体に「地域における多文化共生推進プラン」の策定を要請した（総務省自治行政局国際室長, 2006）。

これを受けて、宮城県は「多文化共生社会の形成の推進に関する条例」を制定し2007年に施行した。また、宮城県は同条例に基づき「多文

* Correspondence: kn-hozawa@sendai-u.ac.jp

化共生社会推進計画」を作成し、県議会に毎年活動報告を行っている。宮城県知事は人口減少問題の解決の難しさを指摘して外国人の受け入れを推進しており^{注1)}、宮城県大崎市の公立日本語学校設置を支援し^{注2)}、ベトナムとは宮城県への人材派遣について協定を結んでいる^{注3)}。宮城県の政令指定都市である仙台市は、多文化共生の拠点である「仙台多文化共生センター」の運営を公益財団法人仙台観光国際協会に委託し、外国人住民の日本語学習支援や多言語の生活相談支援などを行っている。

他方、スポーツの世界大会であるオリンピックには、世界各国から多様な文化的背景を持つ選手や観客が集まるが、オリンピック憲章は「このオリンピック憲章の定める権利および自由は人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、政治的またはその他の意見、国あるいは社会的な出身、財産、出自やその他の身分などの理由による。いかなる種類の差別も受けることなく、確実に享受されなければならない。」(国際オリンピック委員会, 2024, p.10) ことを根本原則としている。また、オリンピック東京2020大会では、大会ビジョン・3つの基本コンセプトのひとつに多様性と調和を掲げて、「東京2020大会を世界中の人々が多様性と調和の重要性を改めて認識し、共生社会をはぐくむ契機となるような大会とする」(東京都オリンピック・パラリンピック準備局, online) と宣言された。これらからスポーツは多文化共生を推進する上で大きな役割を果たしていると考えられる。

「スポーツと多文化共生」については、先行研究は以下のようになっている。Hatzigeorgiadis et al. (2013) は、外国人住民がスポーツに参加することは、文化の多様性の理解とホスト国への文化的統合に貢献しうると指摘した。また、スポーツと多文化共生に関する研究蓄積を検討し、スポーツは民族間交流促進の要因だけでなく対立の要因にもなり、スポーツが多文化共生に貢献するか否かはそれまでの研究蓄積では明確ではないと結論している。Müller et al. (2008) は、多様な出身国からの外国人住民が参加した

オランダ・アムステルダムでのサッカー大会を調査し、この大会の多文化共生との関連性を検証するため、大会主催者、地方自治体、出場者そして観戦者という大会関係者の談話分析を行った。それによると、同大会と多文化共生との関連性については、関係者の立場によって意見が異なっており、大会が多文化共生にプラスに働くという肯定的な意見もあれば、否定的な意見もあった。植田・松村 (2013) は、1980年代後半から日本国内で日系ブラジル人移民の単純労働者が増加しており、彼らの生活問題の解決手段としてスポーツが行政などに活用されていると指摘した。また、移民とスポーツに関する欧米諸国の先行研究をレビューし、スポーツは移民の文化的な統合に働く場合もあるが、同じ出自の移民が結束を強めて文化的統合が進まない場合もあるとした。さらに群馬県のブラジル人フットサルクラブを調査し、このクラブが群馬県内ブラジル人コミュニティの結束を強めていることを明らかにした。今西 (2021) は、移民が現地の人々と一緒にチームスポーツに取り組むことで、現地語の習得にもポジティブに働く可能性があることを、アメリカ在住の日本人移民に行った調査で明らかにした。

これらの先行研究からの知見は、スポーツは多文化共生のためにプラスにもマイナスにも働くということである。Hatzigeorgiadis et al. (2013)、今西 (2021) は、文化の多様性の理解、ホスト国への文化的統合、現地語の習得というプラスの作用を挙げたが、Müller et al. (2008)、植田・松村 (2013) は、オランダや日本国内で同じ出身国の移民者集団がサッカーを契機に結集し、サッカーは対戦型チームスポーツであることから、ホスト国の国民や他国民との文化的差異や対立を認識させ、文化的統合にはマイナスの作用となっている可能性を示唆した。

スポーツが多文化共生に与える影響や、プラスに働くために克服すべき課題を明らかにするためにはさらなる研究の蓄積が待たれるということが筆者の意見である。例えば、Müller et al. (2008)、植田・松村 (2013) では、オランダや

日本において、対戦型チームスポーツのサッカーは多文化共生にマイナスに作用する場合があることも示唆されたが、ホスト国や地域の違い、移民の出身国の違い、個人競技と団体競技の違い、スポーツ種目の違いなどが多文化共生にどのように作用するかなどについて、先行研究では検証が十分とは言えず、スポーツと多文化共生の関係性については今後研究されるべき事象は多いと考えられる。

さて、在留外国人統計によれば、宮城県においても外国人住民は増えてきている（宮城県，2023）。植田・松村（2013）は群馬県在住ブラジル人の増加という状況下で、スポーツが多文化共生に果たす役割を明らかにすることが研究の契機であったが、筆者もまた、外国人住民が増えている宮城県や仙台市の多文化共生にスポーツが果たす役割について関心があり、宮城県内の体育系大学に勤務していることから、外国人住民の中でも留学生のスポーツ習慣について特に強い関心を持っている。それを検討する基礎的資料とするために、本稿は仙台市在住外国人留学生のスポーツについての現状調査を目的とする。

2023年6月現在、宮城県の在留外国人は25,220人である。そのうち仙台市の在留外国人は15,092人（宮城県内在留外国人の59.8%）と宮城県内で最も多く、石巻市1,465人（同5.8%）、大崎市882人（同3.4%）と続く（宮城県，2023）。また、仙台市の在留外国人の在留資格では「留学」が35%と最大で、「永住者」（21%）、「特別永住者」（8%）となっている（仙台市，online）。宮城県在留外国人のスポーツ状況の現状を調査するうえで、在留外国人が最も多い地域である仙台市かつ、そのうち最大の在留資格である留学生に焦点を絞ることは、筆者の関心も理由であるが、宮城県内在留外国人の中で最大の属性集団であることから妥当と考えられる。

日本在住外国人住民のスポーツの状況に関する先行研究には、上代ほか（2016）、桑野（2010）がある。上代ほか（2016）は、東京都内のモスクに通うイスラム教徒を対象としてスポーツに

関する習慣調査を行っている。同調査は、過去1年間に実施したスポーツ種目、スポーツを実施するうえでの困難さや要望などを調査しており、本稿での調査にあたり、好むスポーツ種目の調査や在留外国人が日本でスポーツを行う際の問題や、彼らのスポーツに関する要望の調査の必要性が示唆された。桑野（2010）は九州情報大学の留学生を対象にスポーツ活動についての現状調査を行っている。また、宮城県や仙台市住民のスポーツの状況に関する調査は宮城県（2021）や仙台市（2020）がある。これらの調査は「宮城県スポーツ推進計画」「仙台市スポーツ推進計画」の次期計画の策定のために、住民のスポーツについての状況やニーズを把握するために実施されたもので、仙台市（2020）は住民のスポーツ選好度、スポーツの実施率、スポーツをしない理由や地元プロスポーツチームへの関心などを調査している。仙台市（2020）には、年代別のデータがあり、同年代の日本人住民と外国人住民のスポーツ状況について本稿では比較することが可能となった。宮城県（2021）や仙台市（2020）は調査対象を日本人に限定する旨の記載はないが、日本語による調査票調査であったため回答者の大半は日本人住民であったと思われる。宮城県や仙台市在住外国人住民だけのスポーツの状況ははっきりしない。ここまで確認してきたように、宮城県外のいくつかの地域では外国人住民のスポーツ状況の調査があり、宮城県や仙台市住民のスポーツ傾向についての調査は存在するが、本稿が対象とする仙台市の外国人留学生のスポーツ傾向についての調査研究は見当たらない。

本稿はスポーツ基本法前文の「スポーツは世界共通の人類の文化である」（文部科学省，online）という前提にたち、上述した総務省（2006）の多文化共生の定義に基づき、仙台市の外国人住民と日本人とで認め合うべきスポーツの「文化的差異」は何か、また日本人と外国人が「対等な関係を築こうとする」ためにスポーツについて障害となっていることを、仙台市の外国人留学生を対象とした調査によって明らか

にしたい。

II 方法

仙台市の外国人留学生のスポーツ状況調査にあたり、2023年7月から8月にかけて、調査の協力が得られた宮城県仙台市にある日本語学校3校に依頼し、在籍する外国人留学生を調査対象者として無記名式の英語・日本語併記の質問紙調査を行った。これら3校に所属する留学生すべてを対象としたため調査対象者の総数は678名であった。使用した質問紙は図1、図2である。質問紙の内容は下記のとおりである。

Question 1. What is your sex? (あなたの性別はなんですか?)

- ① Male (男性) ② Female (女性)

Question 2. How old are you? (あなたは何歳ですか?)

_____ years old (____ 歳)

Question 3. What is your NATIONALITY? (あなたの国籍は何ですか?)

Question 4. Are you living in Miyagi prefecture?

(あなたは宮城県在住ですか?)

- ① Yes, I am living in Sendai city. (はい、仙台市在住です)
 ② Yes, I am living in Miyagi prefecture but not in Sendai city. (はい、仙台市在住ではありません)
 ③ No. (いいえ)

Question 5. How long have you lived in Japan?

(あなたは日本に何年住んでいますか?)

- ① 0-6month (6か月未満)
 ② 6 month-1year (6か月-1年)
 ③ 1-2years (1-2年)
 ④ 2-3years (2-3年)
 ⑤ More than 3years (3年以上)

Question 6. Do you like DOING sports? (あなたはするスポーツは好きですか?)

- ① Yes, I love doing sports very much. (非常に好き)
 ② It's Okay. (好き)
 ③ Yes, not so bad. (まあまあ好き)
 ④ I don't like doing sports. (嫌い)

Questions About Your Interest On Sports

NOTICE
 Please answer to the questions below by writing answer in English or Japanese into the column or choosing answer number by drawing circle.
 Please answer only 1 answer unless it is written that you can choose up to 3 answers.

Question1. What is your sex? (あなたの性別はなんですか?)
 ① Male (男性) ② Female (女性)

Question2. How old are you? (あなたは何歳ですか?)
 _____ years old (____ 歳)

Question3. What is your NATIONALITY? (あなたの国籍は何ですか?)

Question4. Are you living in Miyagi prefecture? (あなたは宮城県在住ですか?)
 ① Yes, I am living in Sendai city. (はい、仙台市在住です) ② Yes, I am living in Miyagi prefecture but not in Sendai city. (はい、仙台市在住ではありません) ③ No. (いいえ)

Question5. How long have you lived in Japan? (あなたは日本に何年住んでいますか?)
 ① 0-6month (6か月未満) ② 6 month-1year (6か月-1年) ③ 1-2years (1-2年) ④ 2-3years (2-3年) ⑤ More than 3years (3年以上)

Question6. Do you like DOING sports? (あなたはするスポーツは好きですか?)
 ① Yes, I love doing sports very much. (非常に好き) ② It's Okay. (好き) ③ Yes, not so bad. (まあまあ好き) ④ I don't like doing sports. (嫌い) ⑤ I hate doing sports. (非常に嫌い)

Question7. What sports do you like to DO? (up to 3 answers) (あなたが好きなするスポーツはなんですか?)
 ① Walking (歩き) ② Running (ランニング) ③ Swimming (スイミング) ④ Football (サッカー)
 ⑤ Rugby (ラグビー) ⑥ Volley ball (バレーボール) ⑦ Basketball (バスケットボール) ⑧ Tennis (テニス) ⑨ Golf (ゴルフ) ⑩ bicycle (自転車) ⑪ Ping Pong/Table Tennis (卓球) ⑫ Baseball (野球) ⑬ Badminton (バドミントン) ⑭ Budo (Judo, Karate and so on) (武道、柔道、空手など) ⑮ Cricket (クリケット) ⑯ Mountaineering (登山) ⑰ Other sports (その他) ⑱ Nothing (特になし)

図1 質問紙1

Question8. What is the problem when you do sports in Japan? (up to 3 answers) (あなたがスポーツをするとき最も問題となることは何ですか?)
 ① I am too busy to do sports. (スポーツをする時間がない) ② I don't have enough money to do sports. (お金がない) ③ I don't understand Japanese language to do sports. (日本語が不明) ④ There are little place to do sports. (場所がない) ⑤ I don't have enough information about sports in Japan. (情報が無い) ⑥ I don't have friends to do sports with. (一緒にスポーツをする友達がいない) ⑦ I am not healthy so I cannot do sports. (不健康でスポーツできない) ⑧ I don't have any coaches to do sports. (コーチがいない) ⑨ Other (その他)

Question9. What sports do you want to watch in Japan? (up to 3 answers) (日本で見たいスポーツは何ですか?)
 ① Marathon (マラソン) ② Football (サッカー) ③ Basketball (野球) ④ Tennis (テニス) ⑤ Volley ball (バレーボール) ⑥ Sumo (相撲) ⑦ Rugby (ラグビー) ⑧ Golf (ゴルフ) ⑨ Baseball (野球) ⑩ Badminton (バドミントン) ⑪ Budo (Judo, Karate and so on) (武道、柔道、空手など) ⑫ Other sports (その他)

Question10. Which sports team do you know? (up to 3 answers) (あなたほどのスポーツチームを知っていますか?)
 ① RAKUTEN EAGLES baseball team (楽天イーグルス) ② VEGALTA SENDAI football team (ベガルタ仙台) ③ MYNAVI SENDAI Ladies women football team (マイナビ仙台レディース) ④ SENDAI 89ERS basketball team (仙台89ers) ⑤ LIGARE SENDAI women volley ball team (リガール仙台) ⑥ I don't know any team above. (上記はすべて知らない)

Question11. What is your request when you do or watch sports in Miyagi prefecture? (up to 3 answers) (宮城県でスポーツをしたり見たりするときにどのような要望がありますか?)
 ① Multiple languages availability where you do or watch sports. (多言語対応) ② Kindness (親切さ) ③ Many sports events anybody can join in (誰でも参加できる多くのスポーツイベント) ④ Many opportunities to make friends (友人作りの機会) ⑤ Many information on sports for non-Japanese people. (外国人向けの情報提供) ⑥ Many place to do sports for anybody. (誰でも使える場所) ⑦ Other (その他)

図2 質問紙2

⑤ I hate doing sports. (非常に嫌い)

Question 7. What sports do you like to DO? (up to 3 answers) (あなたが好きなするスポーツはなんですか?)

- ① Walking (歩き) ② Running (ランニング)
 ③ Swimming (スイミング) ④ Football (サッカー)
 ⑤ Rugby (ラグビー) ⑥ Volley ball (バレーボール)
 ⑦ Basketball (バスケットボール)
 ⑧ Tennis (テニス) ⑨ Golf (ゴルフ) ⑩ bicycle (自転車)
 ⑪ Ping Pong (Table Tennis) (卓球)
 ⑫ Baseball (野球) ⑬ Badminton (バドミントン)
 ⑭ Budo (Judo, Karate and so on) (武道, 柔道, 空手など)
 ⑮ Cricket (クリケット) ⑯ Mountaineering (登山)
 ⑰ Other sports (その他) ⑱ Nothing (特になし)

Question 8. What is the problem when you do sports in Japan? (up to 3 answers) (あなたがスポーツをするとき最も問題となることは何ですか?)

- ① I am too busy to do sports. (スポーツをする時間がない)
 ② I don't have enough money to do sports. (お金がない)
 ③ I don't understand Japanese language to do sports. (日本語が不明)
 ④ There are little place to do sports. (場所がない)
 ⑤ I don't have enough information about sports in Japan. (情報がない)
 ⑥ I don't have friends to do sports with. (一緒にスポーツをする友達がいない)
 ⑦ I am not healthy so I cannot do sports. (不健康でスポーツできない)
 ⑧ I don't have any coaches to do sports. (コーチがいない)
 ⑨ Other (その他)

Question 9. What sports do you want to watch in Japan? (up to 3 answers) (日本で見たいスポーツは何ですか?)

- ① Marathon (マラソン) ② Football (サッカー)
 ③ Basketball (野球) ④ Tennis (テニス) ⑤ Volley ball (バレーボール)
 ⑥ Sumo (相撲) ⑦ Rugby (ラグビー) ⑧ Golf (ゴルフ)
 ⑨ Baseball (野球) ⑩ Badminton (バドミントン)
 ⑪ Budo (Judo, Karate and so on) (武道, 柔道, 空手など)
 ⑫ Other sports (その他)

Question 10. Which sports team do you know? (up

to 3 answers) (あなたはどのスポーツチームを知っていますか?)

- ① RAKUTEN EAGLES baseball team (楽天イーグルス) ② VEGALTA SENDAI football team (ベガルタ仙台)
 ③ MYNAVI SENDAI Ladies women football team (マイナビ仙台レディース)
 ④ SENDAI 89ERS basketball team (仙台89ers) ⑤ LIGARE SENDAI women volley ball team (リガーレ仙台)
 ⑥ I don't know any team above. (上記はすべて知らない)

Question 11. What is your request when you do or watch sports in Miyagi prefecture? (宮城県でスポーツをしたり見たりするときどのような要望がありますか?)

- ① Multiple languages availability where you do or watch sports. (多言語対応)
 ② Kindness (親切さ) ③ Many sports events anybody can join in (誰でも参加できる多くのスポーツイベント)
 ④ Many opportunities to make friends (友人作りの機会)
 ⑤ Many information on sports for non-Japanese people. (外国人向けの情報提供)
 ⑥ Many place to do sports for anybody. (誰でも使える場所)
 ⑦ Other (その他)

調査の手続きとして、日本語学校の担当者が調査当日に登校した学生に質問紙を配布して回答を得た。その結果、354名から回答を得た(回答率: 52.2%)。回答を参照したところ、設問に対して不適切な回答や意味不明な回答が含まれていたが、これらは「不明」として集計した。そのため有効解答率は100.0%であった。

質問及び回答は、日本語を母語とする筆頭研究者が英語及び日本語で作成した。質問項目及び質問紙の英語や日本語の水準については、調査対象者に日本語や生活関連について指導をしており、調査対象者の語学水準について把握している日本語学校の担当者に確認した。

質問項目は調査対象者が仙台市の日本語学校に通う外国人留学生であることから、仙台市(2020)の質問項目を参考に設定し、仙台市在住日本人の傾向との比較を可能にした。また、外国人住人特有の傾向を調査するために、仙台

市（2020）の質問項目で不足している内容については上代ほか（2016）の質問項目を参考にして設定した。これにより仙台市の外国人留学生と日本人住民とのスポーツに関する傾向の相違や、仙台市の外国人留学生がスポーツをするうえで問題となっていることを明確化することを試みた。各質問項目の説明は下記のとおりである。

Question 1からQuestion 4は調査対象者の属性確認である。性別、年齢や在住地については仙台市（2020）を、出身国については上代ほか（2016）を活用した。

Question 5は、調査対象者の属性確認として日本在住期間を調査した。

Question 6は、調査対象者の「する」スポーツの選好度の問いである。この質問項目は仙台市（2020）のものを活用している。

Question 7は、調査対象者の好きな「する」スポーツ種目についての問いである。3個まで回答可能とした。この質問は、上代ほか（2016）の「1年間に実施したスポーツ・運動」とその選択肢を参考にして作成した。

Question 8は、調査対象者がスポーツをする際に問題となることについての問いである。3個まで回答可能とした。この質問項目は外国人特有の傾向を把握する目的で、上代ほか（2016）の「スポーツを実施する際に困難なこと」とその回答選択肢や、仙台市（2020）の質問項目「運動やスポーツをしなかった理由」を参考にして作成した。

Question 9は、調査対象者の日本で見たいスポーツ種目についての問いである。3個まで回答可能とした。この質問項目は仙台市（2020）の質問項目「今後観戦したいスポーツ」を参考に設定した。

Question 10は、調査対象者の宮城県内プロスポーツチームの認知度についての問いである。3個まで回答可能とした。3個まで回答可能とした。この質問項目は仙台市（2020）の質問項目「地元プロスポーツチームへの関心の有無」「今後観戦したいスポーツ」を参考に設定した。

Question 11は、調査対象者がスポーツをしたり、見たりするときの要望についての問いである。3個まで回答可能とした。この質問は日本在住外国人特有の事情を確認するため、上代ほか（2016）の質問項目「スポーツ活動における要望」を参考にして質問と回答選択肢を設定した。

なお、調査では、調査結果は研究目的に限定すること、個人情報保護に配慮すること、回答後に回答は取り下げ可能であることを説明し研究倫理に配慮して実施している。

Ⅲ 結果

1. 調査対象者の性別・国籍・平均年齢・居住地

これらの項目はQuestion 1からQuestion 4で調査した。回答は表1である。調査対象者はネパールやパキスタンなど南アジア諸国出身者が大半を占めており全体で354名（男性210名、女性134名、不明10名）、その平均年齢は23.5歳（男性23.9歳、女性23.1歳）と20代前半の若者たちである。また、全体の304名（85%）が仙台市在住である。

2. 日本在住期間

この項目はQuestion 5で調査した。回答は図3である。全体的にも国別にも調査対象者の日本在住期間は2年以内が大半を占めており在住期間の短い人が多かった。

3. するスポーツの選好度

この項目はQuestion 6で調査した。回答は図4である。全体では「非常に好き」と「好き」を合わせると294名（全体の83%）となり、国や性別で傾向の違いは若干あるが、全般的に調査対象者の間でスポーツをすることは好まれている傾向が確認できる。国別では他国出身者に比べネパール、バングラデシュ、パキスタン出身者は「非常に好き」「好き」の割合が高かったが、ベトナムは「非常に好き」「好き」の合計が

仙台市留学生のスポーツ関心に関する調査

表1 調査対象者の性別, 平均年齢, 居住地

国籍	性別	人数	平均年齢	最年長	最年少	標準偏差	仙台市民	非仙台市民	不明
ベトナム	男性	8	22.4	28	20	1.29	6	1	1
	女性	16	23.3	30	18	3.53	16	0	0
	合計	25	22.9	30	18	3.20	23	1	1
バングラデシュ	男性	24	23.2	28	19	2.36	17	4	3
	女性	1	30	30	30	0.00	1	0	0
	合計	25	23.5	30	19	2.67	18	4	3
ネパール	男性	118	23.8	31	17	2.90	106	3	9
	女性	95	22.8	36	17	2.83	82	5	8
	合計	219	23.4	36	17	2.90	192	9	18
パキスタン	男性	38	24.6	38	18	4.07	29	2	7
	女性	0	0	0	0	0.00	0	0	0
	合計	40	24.7	38	18	4.02	30	2	8
その他	男性	22	24.6	33	21	3.69	22	0	0
	女性	22	23.6	36	17	3.89	19	2	1
	合計	45	23.6	36	17	3.82	41	2	2
全体	男性	210	23.9	38	17	3.21	180	10	20
	女性	134	23.1	36	17	3.18	118	7	9
	合計	354	23.5	38	17	3.22	304	18	32

各国合計, 全体合計には性別不明も含む

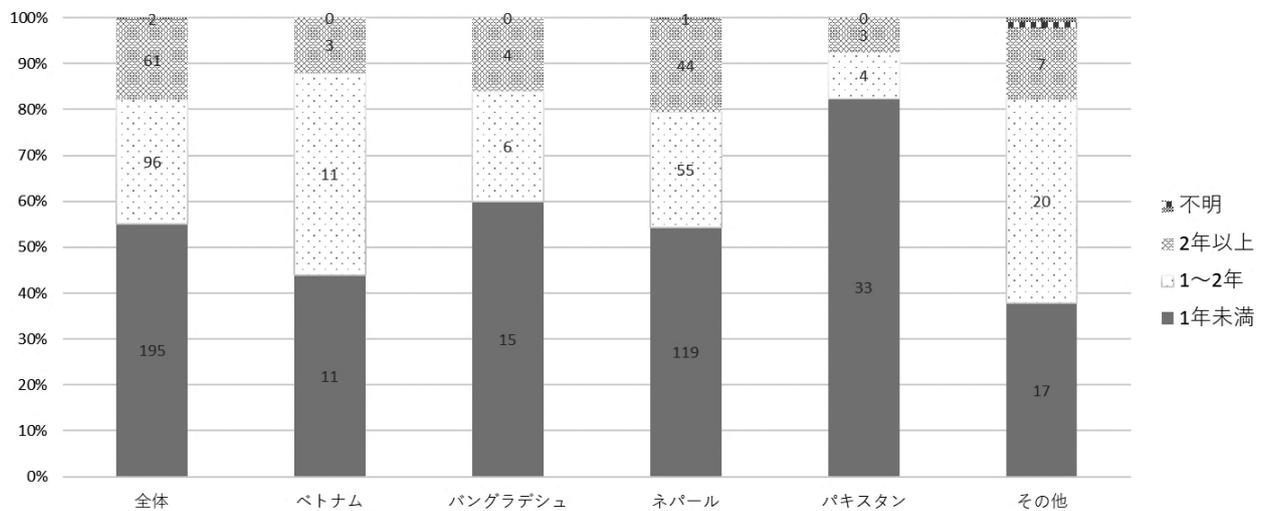


図3 日本在住期間

50%を下回り, スポーツを好む人の割合が高いとは言えなかった。

4. 好きな「する」スポーツ種目

この項目はQuestion 7で調査した。回答が図5である。この質問は3個まで回答可能な質問であり回答は単純合算した。回答結果は国別に異なる結果となった。全体では「サッカー」「クリ

ケット」「バドミントン」「バレーボール」「歩き」「ランニング」「水泳」の順位であったが、国別ではネパールは「サッカー」「バドミントン」「バレー」の順であり、パキスタンとバングラデシュは「クリケット」「サッカー」「バドミントン」の順、ベトナムは「バドミントン」「歩き」「ランニング」「水泳」の順であった。

朴澤

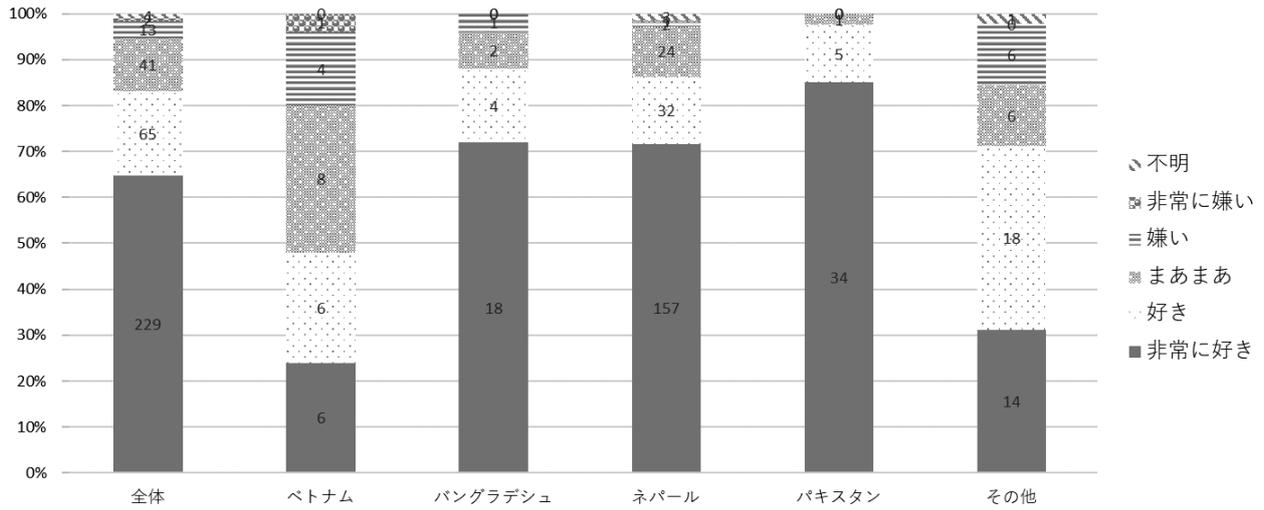


図4 するスポーツの選好度

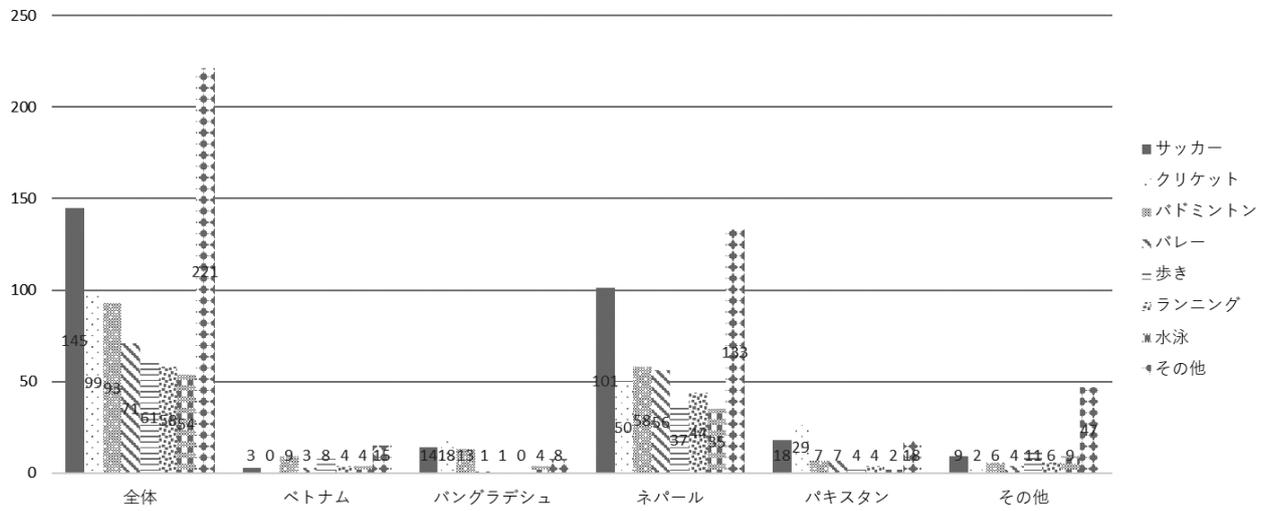


図5 好きな「する」スポーツ種目

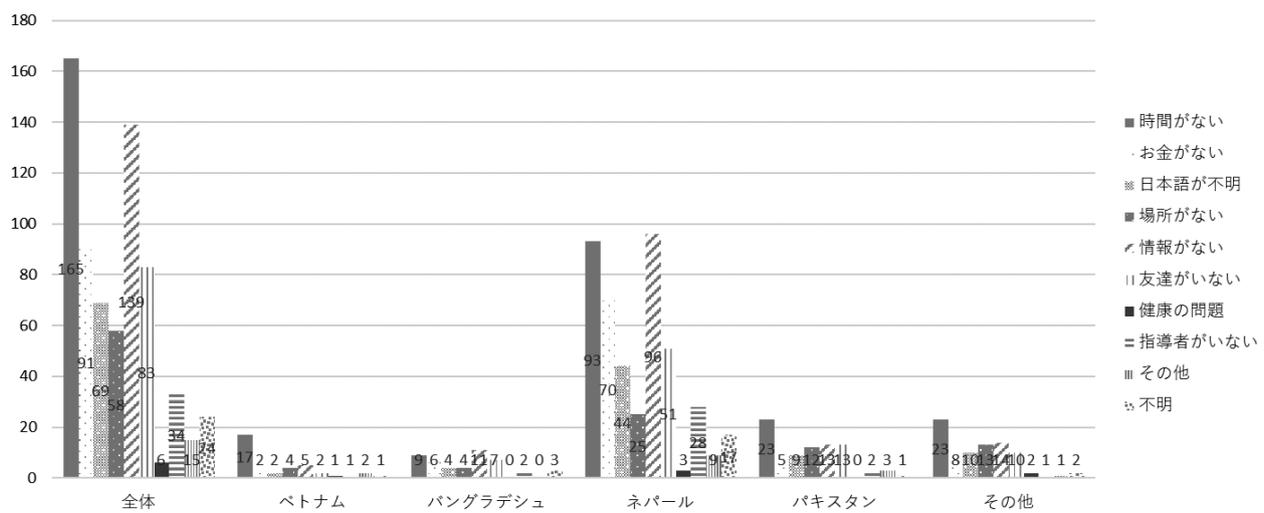


図6 スポーツをする時の問題

仙台市留学生のスポーツ関心に関する調査

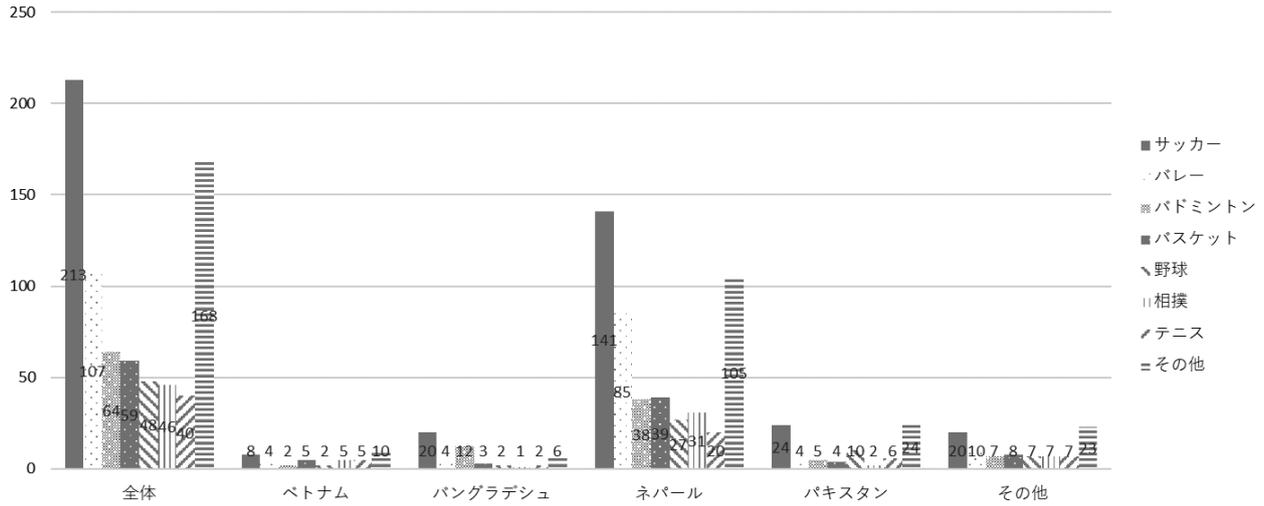


図7 日本で見たいスポーツ種目

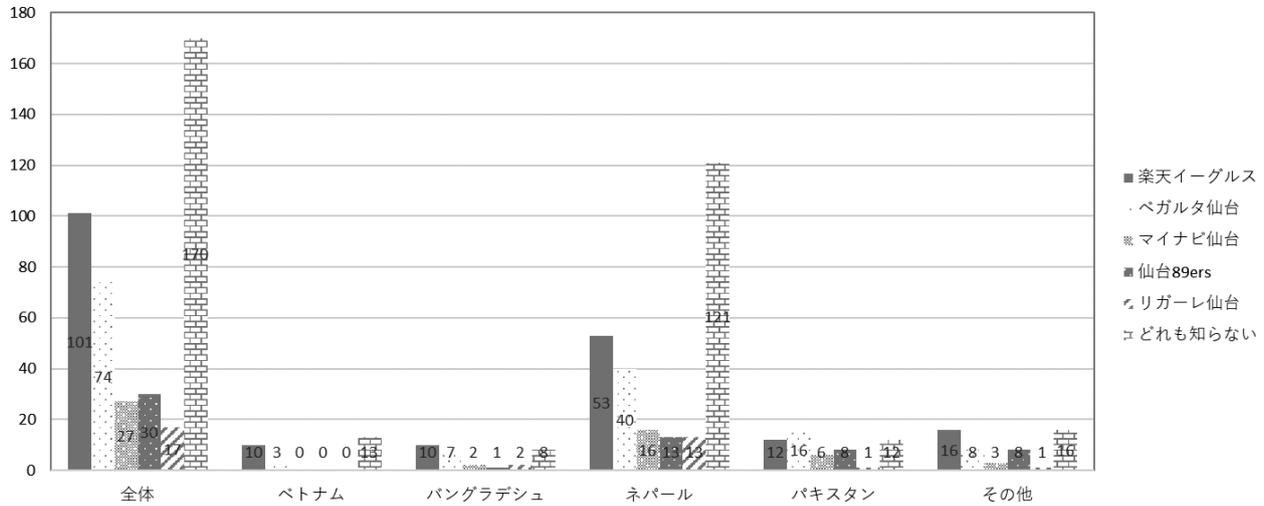


図8 宮城県内プロスポーツの認知度

5. スポーツをする際に問題となること

この項目はQuestion 8で調査した。回答が図6である。この質問は3個まで回答可能な質問であり回答は単純合算した。全体では「時間がない」「情報がない」「お金がない」「友達がいない」「日本語が不明」の順に問題として挙げられている。国別ではネパールとバングラデシュは「情報がない」が最も多く、ベトナムとパキスタンは「時間がない」が最も多かった。

6. 日本で見たいスポーツ種目

この項目はQuestion 9で調査した。回答が図7である。この質問は3個まで回答可能な質問であり回答は単純合算した。全体では「サッカー」「バレーボール」「バドミントン」「バスケットボール」「野球」「相撲」「テニス」の順となった。

「野球」「相撲」「テニス」の順となった。

国別ではネパールが「サッカー」「バレーボール」の順で多く他のスポーツはほぼ同数であった。パキスタンが「サッカー」「野球」の順で多く他はほぼ同数であった。バングラデシュは「サッカー」「バドミントン」の順で多く他はほぼ同数であった。ベトナムは見たいスポーツについて票が分かれた。

7. 宮城県内プロスポーツチームの認知度

この項目はQuestion 10で調査した。回答が図8である。この質問は3個まで回答可能な質問であり回答は単純合算した。全体的、国別で調査対象者が知っている宮城県内のプロスポーツチームは「どれも知らない」(48.0%)が最も

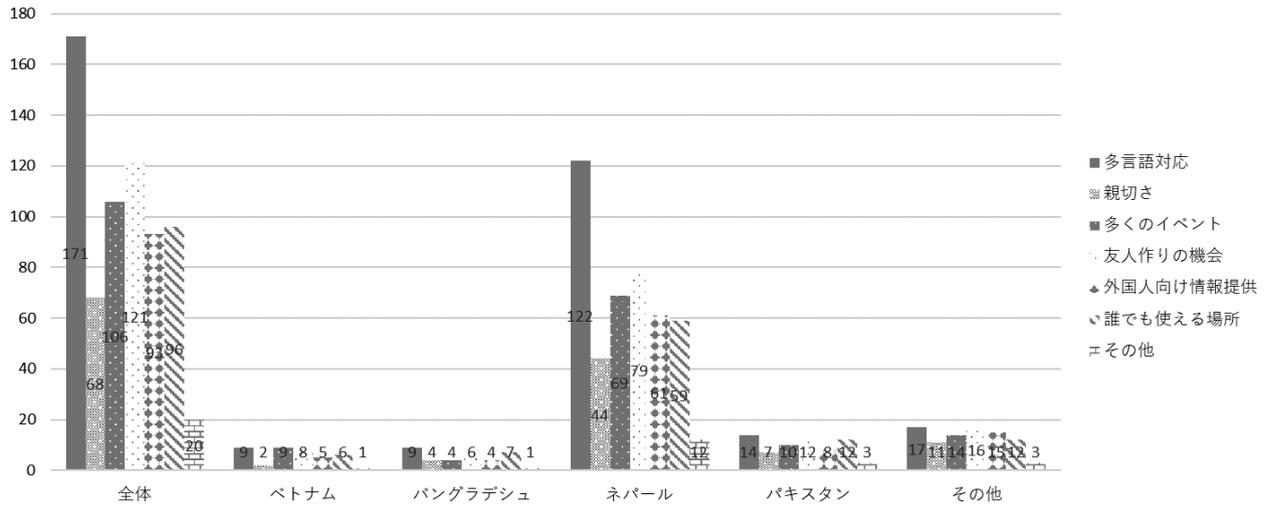


図9 宮城県でスポーツをしたり見たりするときの要望

多い回答となった。各プロスポーツチームの認知度は「楽天イーグルス」(28.5%)「ベガルタ仙台」(20.9%)「仙台89ers」(8.4%)「マイナビ仙台」(7.6%)「リガーレ仙台」(4.8%)であった。

8. 宮城県で外国人留学生がスポーツをしたり、見たりするときの要望

この項目はQuestion 11で調査した。回答が図9である。この質問は3個まで回答可能な質問であり回答は単純合算した。全体的に多かった要望は「多言語対応」「友人作りの機会」「多くのスポーツイベント」「誰でも使える場所」「外国人向けの情報提供」「親切さ」の順であった。国別に見てもほぼ全体と同様の傾向であった。

IV 考察

本研究での質問項目と回答選択肢は、仙台市(2020)、上代ほか(2016)を参考にして設定した。本研究の調査対象者は仙台市の外国人留学生であり、仙台市(2020)の調査対象者である日本人住民からの回答と比較することで、スポーツ活動について、仙台市の外国人留学生と日本人住民の文化的な相違点を明らかにすることを試みた。

1. するスポーツの選好度

仙台市(2020)によれば、本研究の調査対象

である外国人留学生と同年代の日本人仙台市民20代男性は「好き」の割合が75.9%、20代女性は59.8%である。この研究の調査対象者は83%が「非常に好き」「好き」と回答しており、仙台市の外国人留学生は同年代の日本人住民と同様にするスポーツを好む傾向がある。

2. 仙台市の外国人留学生が好む、するスポーツの種目

本研究の調査で、外国人留学生には「サッカー」の人气が概ね共通して高いことが確認できたが、出身国により好きなスポーツ種目は異なる結果となった。上代ほか(2016)の「1年間に実施したスポーツ・運動」という質問に対する首都圏の外国人イスラム教徒の回答は「ウォーキング」「サッカー」「ジョギング」「バドミントン」「キャンプ」の順であり、仙台市の外国人留学生と同様に多様な回答となっている。

3. スポーツをする際に問題となること

仙台市の外国人留学生は「時間がない」「情報がない」「お金がない」「友達がいない」「日本語が不明」の順に問題として挙げている。仙台市(2020)の質問項目「運動やスポーツをしなかった理由」の回答では、日本人20代男性は「時間がない」「機会がない」「他に打ち込むものがある」「お金がかかる」の順であり、日本

人20代女性は「機会がない」「時間がない」「疲れる」「運動が不得意」「仲間がいない」の順であった。これらから、「時間がない」がスポーツをする際の問題であることは、日本人の若者と外国人とで共通している。

4. 日本で見たいスポーツ

今回の調査ではどの出身国からの留学生からもサッカーが最も人気であった。仙台市（2020）によると、日本人住民が「今後観戦したいスポーツ」は「野球」「スケート」「ラグビー」「サッカー」「バレーボール」の順となっており、日本人住民とは傾向が異なることが指摘できる。

5. 宮城県内プロスポーツチームの認知度

仙台市の外国人留学生は「どれも知らない」が最も多く、楽天イーグルスとベガルタ仙台が若干知られている程度であった。仙台市（2020）によれば、日本人住民の今後観戦したいスポーツチームは「楽天イーグルス」が57%と最大で「ベガルタ仙台」「マイナビ仙台」「仙台89ers」と続く。宮城県内プロスポーツは外国人住民の顧客化を図るのであれば外国人に対する認知度を高める努力が求められる。

6. スポーツをしたり、見たりするときの要望

仙台市の外国人留学生は「多言語対応」「友人作りの機会」「多くのスポーツイベント」「誰でも使える場所」「外国人向けの情報提供」「親切さ」の順であった。

7. 総合的考察

本稿の調査対象者は平均年齢が20代前半の外国人留学生であったが、するスポーツを好む点では、仙台市の同年代日本人と同じであり文化的相違はないと言える。一方で、好むスポーツ種目については、するスポーツ・見たいスポーツともに出身国によって多様であり、日本人の傾向とも異なることが確認できた。

仙台市の外国人留学生がスポーツをする時の問題は「時間不足」「情報不足」「お金の不足」

「友達の不足」「日本語」の順となっている。時間やお金がないことの問題は同年代の日本人住民とも共通するが、情報不足や言語の問題は外国人特有の問題であり、宮城県のプロスポーツチームはほとんど知らないという外国人留学生が多いことも、外国人向けのスポーツ情報発信に関係がある可能性がある。スポーツの情報不足については、例えば、各組織のウェブサイトの内容やその多言語対応の問題がある。図9で示した通り本研究の調査で外国人留学生がスポーツをしたり、見たりする時の最も多かった要望は多言語対応であった。仙台多文化共生センターのウェブサイトは多言語対応であり、外国人向け日本語支援、生活相談や医療情報などは掲載があるが、スポーツに関する情報はない。また、今回の調査紙の回答選択肢にあげた宮城県内プロスポーツチームは、楽天イーグルスを除いてウェブサイトが多言語対応になっていない。今後、日本人住民が減少し、外国人住民が増加してくるのであれば、国や地方自治体は、スポーツ基本法第二条7項にあるように、スポーツは人々の権利であり、国際相互理解の増進及び国際平和に寄与するものとなるようにスポーツを推進しなければならない。また、同法第二条8項にあるように、スポーツは、スポーツを行うものに対し、不当に差別的な取り扱いをせず、スポーツに対する国民の幅広い理解及び支援が得られるように推進されなければならない。このようなスポーツ基本法の趣旨を鑑みると、スポーツは多文化共生の行政課題として扱われるべきであるし、国や地方自治体からのスポーツ情報発信は、外国人住民も含めて国民の幅広い理解が得られるようになされるべきであろう。また、プロスポーツチームも含め民間部門は、日本人住民だけを対象とした事業活動のままであれば、日本人住民の減少にあわせて顧客が減少していくことになる。民間部門にとっては、事業の健全な継続や発展のためには、外国人住民も顧客にすることは経営課題となるであろう。外国人住民の増加や外国人の顧客化という課題に対して、国、地方自治体や民間部門は、ま

ずは外国人向けスポーツ情報発信の充実や多言語対応での情報発信に取り組むべきである。

緒論で述べたように、多文化共生は「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」(総務省, 2006, p.5)であり、スポーツをこれにあてはめれば、例えば、日本人住民と外国人住民が共通して好むスポーツ種目や、逆に外国人には人気だが日本人には認知度のないようなスポーツを一緒に行うようなイベントを定期的で開催することも多文化共生の一助となると考えられる。

V 結論

本稿の目的は、仙台市在住の日本人と外国人との間のスポーツ上の文化的差異及びスポーツでの対等な関係を築く上での問題を明らかにすることであった。

方法は、仙台市の日本語学校外国人留学生にスポーツの状況について質問紙調査を行った。調査対象者は平均年齢20代前半の男女で、ネパール、パキスタンなどアジア諸国出身者が大半であった。

結果は、調査対象者はするスポーツを好む人が多いが、好むスポーツ種目は出身国により異なっていた。また、スポーツを楽しむ問題として時間、情報の不足や言語の問題が多く挙げられた。

本稿の考察は、するスポーツを好む点では、外国人の若者は日本人の若者と同様であるが、彼らが好む種目は出身国の違いに応じて多様であることが確認できた。また、時間不足、言語の問題や情報不足が仙台市の外国人留学生がスポーツを楽しむときの問題となっていることが示唆された。

本稿の限界は、仙台市在住外国人留学生のスポーツ傾向に関する調査としては、調査データ取得の都合上、調査対象者が日本語学校の留学生に限定され、特定の年齢、出身国や短期間在

留者に偏ったことである。今後の調査では、大学や専門学校の留学生を対象としたり、さらには「留学」とは異なる在留資格者も対象に広げたりするなど、より多様な調査対象者とすることを今後の課題としたい。

注

注¹⁾ 村井知事「外国人をどんどん受け入れていくことも考えるタイミングだ」少子化・人口減少対策で持論展開「技能実習生受け入れの本音は労働力不足を補うこと」(tbc 東北放送 2023年1月11日). <https://newsdig.tbs.co.jp/articles/tbc/269429>, (参照日 2024年11月22日)。

注²⁾ 大崎市が市立日本語学校を計画、25年開校目指す 公立は全国2例目(朝日新聞 ONLINE 2023年6月19日). <https://www.asahi.com/articles/ASR6L7F6YR69UNHB00B.html>, (参照日 2024年11月22日)。

注³⁾ 宮城県とベトナム政府が介護人材確保へ覚書インドネシアとも締結目指す(河北新報 ONLINE 2023年3月29日). <https://kahoku.news/articles/20230328khn000054.html>, (参照日 2024年11月22日)。

文献

- Hatzigeorgiadis, A., Morela, E., Elbe, A.M., Kouli, O., and Sanchez, X. (2013) The integrative role of sport in multicultural societies. *European Psychologist*, 18 (3): 191-202.
- 今西ひとみ (2021) 米国の子ども向け地域スポーツ活動：日本人家庭に見る異文化適応戦略. 明石書店, pp. 132-183.
- 上代圭子・野川春夫・工藤康宏・秋吉遼子 (2016) スポーツイベントを通じたイスラム系在日外国人のスポーツ・ライフの調査研究. 笹川スポーツ研究助成研究成果報告書, pp.67-75.
- 国際オリンピック委員会 (2024) オリンピック憲章. https://www.joc.or.jp/olympism/charter/pdf/olympic_charter2024.pdf?v=2, (参照日 2025年1月4日)。
- 桑野裕文 (2010) 外国人留学生と大学生の大学運動部への参加動機に関する調査研究. 九州情報大学研究論集, 12 : 127-136.
- 宮城県 (2019) 第3期宮城県多文化共生社会推進計画. <https://www.pref.miyagi.jp/documents/7452/739217.pdf>, (参照日 2024年11月22日)。
- 宮城県 (2021) 令和3年度スポーツに関する県民アンケート結果報告書. https://www.pref.miyagi.jp/documents/37457/r3_docu7.pdf, (参照日 2024年11月22日)。

- 宮城県 (2023) 宮城県の在留外国人の状況 (令和 5 年 (2023 年) 6 月末現在). https://www.pref.miyagi.jp/documents/7444/6_sa2.pdf, (参照日 2024 年 11 月 22 日).
- 文部科学省 (online) スポーツ基本法. https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/kihonhou/attach/1307658.htm, (参照日 2024 年 11 月 22 日).
- Müller, F., Zoonen, L. V., and Roode, L.D. (2008) The integrative power of sport: Imagined and real effects of sport events on multicultural integration. *Sociology of Sport Journal*, 25: 387-401.
- 仙台市 (2020) 仙台市スポーツに関する意識調査報告書. https://www.city.sendai.jp/sports-kikaku/kurashi/manabu/sports/kekaku/documents/suisinkeikaku_houkokusyo_r2_1.pdf, (参照日 2024 年 11 月 22 日).
- 仙台市 (online) 仙台市の外国人住民数について. <https://www.city.sendai.jp/koryu/shise/gaiyo/profile/koryu/r5/20230501tokei.html>, (参照日 2025 年 1 月 4 日).
- 総務省 (2006) 多文化共生の推進に関する研究会報告書. https://www.soumu.go.jp/kokusai/pdf/sonota_b5.pdf, (参照日 2024 年 11 月 22 日).
- 総務省自治行政局国際室長 (2006) 地域における多文化共生推進プランについて 総行国第 79 号. https://www.soumu.go.jp/kokusai/pdf/sonota_b6.pdf, (参照日 2024 年 11 月 22 日).
- 総務省統計局 (online) 国勢調査過去の調査結果・時系列データ. <https://www.stat.go.jp/data/kokusei/2020/kekka.html>, (参照日 2024 年 11 月 22 日).
- 出入国在留管理庁 (2023) 令和 5 年 6 月末現在における在留外国人数について公表資料. <https://www.moj.go.jp/isa/content/001403955.pdf>, (参照日 2024 年 11 月 22 日).
- 東京都オリンピック・パラリンピック事務局 (online) 大会ビジョン. <https://www.2020games.metro.tokyo.lg.jp/special/watching/tokyo2020/games/games-vision/index.html>, (参照日 2024 年 11 月 22 日).
- 植田俊・松村和則 (2013) セーフティネット化する移民のスポーツ空間：群馬県大泉町のブラジル・フットサル・センター (BFC) の事例. *体育学研究*, 58 : 445-461.

(2024年12月3日受付)
(2025年2月18日受理)